

# 道徳の時間学習指導案

- 1 日時 平成28年7月6日(水) 第4校時
- 2 学年 第5学年 29名
- 3 主題名 「決まりを守る」 内容項目 4-(1)公德心, 遵法, 権利義務  
【特別の教科 道徳編 C-(12) 規則の尊重】
- 4 ねらい 図書館での利用の仕方について自分だけなら良いだろうという考えが深刻な被害に繋がっている実態を知り, 現実的な状況の中で公共物の利用のあり方についての解決策を公德心を持って多面的に考え判断できる力を養う。
- 5 資料名 「小平市の図書館 被害本を展示「本が泣いている」」  
(出典 youtube <https://www.youtube.com/watch?v=HBgVjvuFXt0>)
- 6 主題設定の理由
  - 本主題は, 学習指導要領第5学年及び第6学年の内容「1主として集団や社会とのかかわりに関すること」の「(1)公德心をもって法やきまりを守り, 自他の権利を大切にし, 進んで義務を果たす。」に基づいたものである。社会は集団生活で成り立っているため, 約束やきまりが存在する。みんなが自分の権利ばかりを主張して義務を遂行しなければ, 社会維持できないし, 個人が幸せに暮らしていくことは難しい。しかし, ごみの不法投棄や文化遺産への落書きなどはニュースなどで社会問題として捉えることができても, ゴミのポイ捨てなど身近な日常にある公共物の利用になると道徳的な判断ができなくなりあとを絶たない現状にある。そこで, 自分さえよければよいと考えるのではなく, 不特定多数の人々に配慮しようとする公德心を養い規範意識を育てるだけでなく, 実際の生活場面で実践できる判断力を身に付けていくことが必要である。

本資料は, 公共施設である図書館での本の被害についてのニュースである。利用者による本の落書きや切り取りなど利用者のモラルが問われる内容となっている。年間の被害冊数は4500冊以上に及ぶという点が, 「自分だけなら良いだろう」という軽い気持ちから深刻な被害につながる事が分かりやすく, 問題意識を持つのに適した教材である。
  - 本学級の児童に公共物の利用の仕方についてアンケートを行ったところ, 「みんなで使うものは大切に扱わなければならないと思う」と答えた児童が98%であった。しかし, 「みんなで使う物はいつも大切に扱うことができている。」と答えた児童が70%であった。この事から, 本学級の児童は公共物についての規範意識は高いといえるが, 実際の生活場面では行動が伴わない児童もいることが分かる。学級での様子を見ていても, 例えば, 本の整頓の仕方なども, みんなで使うものだから整頓しなければならないことはよく理解しているが, 実際の生活場面で急いでいる時や疲れている時など本が雑然と置かれていることがある。そこで, 学級会を開き, 整理整頓について話し合いを行ったが, なかなか改善されていないという実態があり, 学級の課題であると感じている児童も多い。
  - 指導に当たっては, 公共のマナーの問題が, 現実的で且つ深刻なものであることを感じさせたい。そこで展開前段では, 破損した本の写真や, 図書館での年間の廃棄冊数を効果的に利用する。また, 軽率な行動をとってしまう心情を考えさせることで, 誰にでも起こりうる可能性があることをつかませたい。

そして, ねらいに迫るために, 展開後段では解決策について公德心をもって多面的に考えることに重点を置きたい。そこで解決策の立場を2つに分け, どちらの方法もマナーをよくしていきたいのだが, 現実的に考えると, それぞれの方法に良い点だけでなく悪い点も引き起こされることに着目させながら話し合わせたい。その際に方法論や机上の空論だけで終わることがないように, そのような判断をした思いや, 良い点や悪い点を考え判断をするに至るまでの葛藤する気持ちを大切にしたい。また, 他人事で終わらず, 自分の事として考えられるように, 議論する中で, 自分ならどのような図書館が良いかを視点を変えて考えさせたい。そして, 終末では, 学校の司書教諭にゲストティーチャーとして登場してもらい, 図書室の利用のあり方について現状を話して

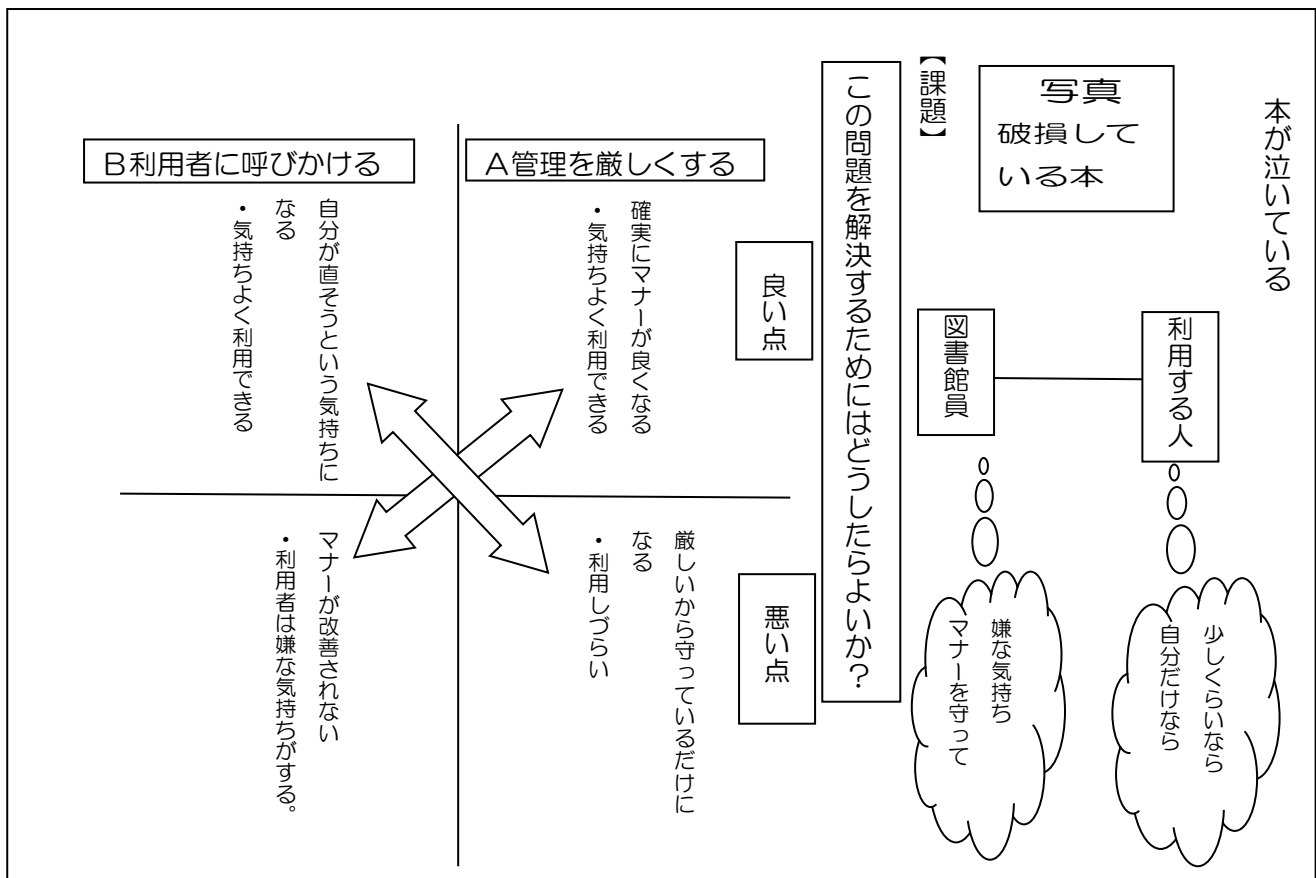
もらい、自分の事として考えて行動に移していけるようにしたい。

7 指導過程

	学習活動	主な発問と児童の心の動き (主な発問 (○), 中心発問 (◎), 予想される児童の反応 (・))	指導上の留意点 (○支援 ☆児童への評価の観点 ★指導者への評価の観点)
導入	1 公共のものの使い方について考える。	○みんなで使うものをどのように扱っていますか？ ・大事に扱っている。 ・自分のものではないから、いい加減に扱っている。	○学級での実態を振り返り、課題意識が持てるようにする。
展開前段	2 動画「小平市の図書館被害本を展示「本が泣いている」」を視て課題をつかむ。  3 課題に対する解決策を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">この問題の解決策について考えよう。</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">A 管理を厳しくする。</div> ・警備員を立たせる。 ・防犯カメラやブザーを取り付ける。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">B 利用者に呼びかける。</div> ・図書館のルールやマナーを守るように呼びかける。(ポスターなど) ・図書館の現状を知ってもらう。  4 解決策の中でより良い方法について話し合う。	○破損した本を見て、図書館員はどんな気持ちですか？ ・大事に扱っているのに悲しい。 ・利用しないでほしい。 ○本のページを切り取った人はどんな気持ちでしたのでしょうか？ ・みんなもしているからいいだろう。 ・自分だとばれないからいいだろう。  ◎どの方法がより良い解決策でしょうか？ <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">A 管理を厳しくする。</div> (良い点) ・厳しくすれば確実に、マナーがよくなり、利用者は利用しやすくなる。 (悪い点) ・お金がかかり、新しい本が買えなくなる。 ・利用者は、窮屈に感じて利用しなくなる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block; margin: 5px 0;">B 利用者に呼びかける。</div> (良い点) ・人任せにせず、自分が直そうとする。 ・お金がかからないので新しい本を買える。 ・利用者は過ごしやすい。 (悪い点) ・厳しくないで、直さない人が出る。 ・ポスターを作るのは大変。	○図書館員や本のページを切り取った人の気持ちを考えさせることで、自分だけなら良いだろうという軽率な行動が、深刻な被害や迷惑を受ける立場の人が居ることに気が付くようにする。  ○どの判断も間違いではなく、判断した理由を大切にする。 ○自分たちの生活場面(図書室の利用の仕方など)を基にして話し合えるようにし、自分達の生活と関連付けながら考えられるようにする。 ★児童の多面的・多角的な思考を促す上で適切に話し合えるような声かけができたか。

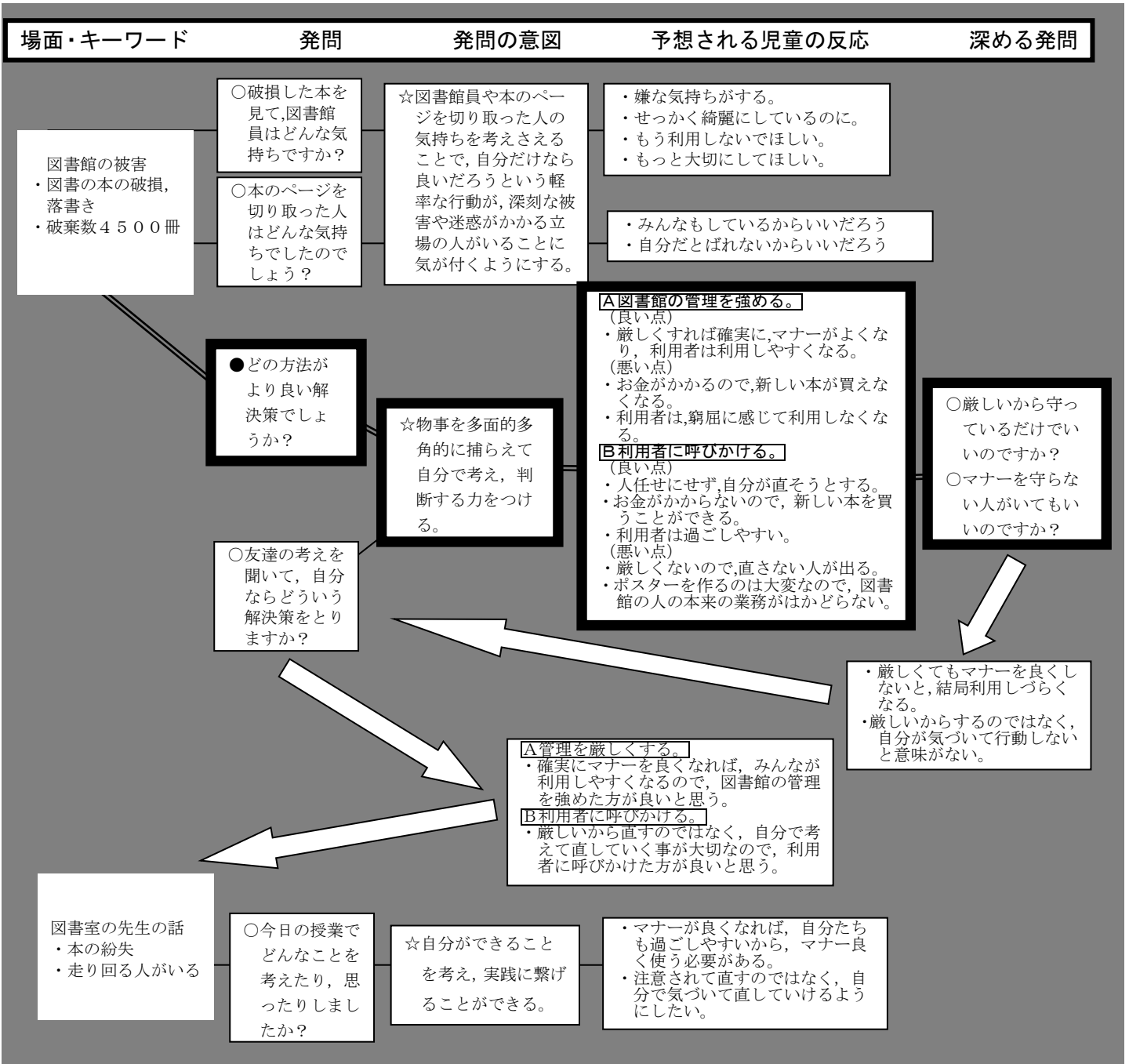
展開後段	<p>5 自分の解決策を考える。</p> <p>○友達のことを聞いて、自分ならどういう解決策をとりますか？</p>	<p>○何を大切に判断したかを考えるようにし、方法が違うが利用者のモラルやマナーについての価値が共通であることに気が付くことができるようにする。</p> <p>☆多様な条件の中から公德心をもって判断する事ができたか。</p> <p>(発言・ノート)</p>	
<p>(例) <b>A 管理を厳しくする。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・確実にマナーを良くなれば、みんなが利用しやすくなるので、図書館の管理を強めた方が良いと思う。</li> </ul> <p><b>B 利用者に呼びかける。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・厳しいから直すのではなく、自分で考えて直していく事が大切なので、利用者に呼びかけた方が良いと思う。</li> </ul>	終末	<p>6 図書室の先生の話聞く。</p> <p>○今日の授業でどんなことを考えたり、思ったりしましたか？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・みんなで使う場所は、一人ひとりがマナーを守るように気をつけなければいけない。</li> </ul>	

8 板書計画



資料選定への思い

自分だけなら良いだろうという考えが深刻な被害に繋がることを知り、マナーを守らないことを現実的な問題として捉えることができ、課題意識をもち多面的に解決策を考えることが期待できる。



主題 「決まりを守る」

内容項目 4-(1)公徳心, 遵法, 権利義務

本時のねらい

図書館での利用の仕方について自分だけなら良いだろうという考えが深刻な被害に繋がっている実態を知り、現実的な状況の中で公共物の利用のあり方についての解決策を公徳心をもって多面的に考え判断できる力を養う。